

令和5年度 宮の原中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

- 基本目標 『未来を拓く日本人を育てる』
- 具体目標（目指す生徒像） ・創造性に富む人 ・心豊かな人 ・最善を尽くす人
- 校訓 自主創造

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

☆テーマ 『豊かな心をもって、自律・実践する生徒の育成』

— 希望・創造・感動 の校風をめざして —

今、日本の社会は、大きな変化の時代を迎え、多くの若者にとって、夢を抱きにくい社会になったともいわれている。しかし、社会がどのように変化しようと、人がその社会を生きていく厳しさは今でも変わらない。まして、生徒や家庭を取り巻く状況は現在、日ごとにその厳しさを増していると同時に、教育現場への要求は限りなく、私たちの眼前に掲げられている。

だからこそ、その社会を生きていく生徒たちは、困難や試練に負けずに生き抜いていく強さとたくましさ、そして、しなやかさをもつこと、人への思いやりや感謝する心、感動する心などを育てていくことが重要である。

そのためには、中学生という多感な時代に「希望・創造・感動」の世界を広げてやるのが本校では必要であると考え。希望は未来を創造し変えていく力、創造は生きる意欲と知恵、感動にはやる気を起こさせ、社会に生きて働く力や自己肯定感、生きる優しさを育む力がある。そのような校風をつくることによって、自律（自分で立てた規則に従って、自分のことは自分でやっていく力）・実践（粘り強く取り組み、それまでなかったものを作り出す力）する力が生徒一人一人に身に付くものと考え。

その育成のために、全職員が生徒と正面から向き合って、生徒の一人一人の「よさ」を認め、ほめて伸ばす教育活動を実践していく。

[宮の原地域学校園教育ビジョン] 心豊かで 輝く子どもの育成

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○生徒の「生きる力」を育成するために個に応じた教育を進め、地域に根ざした活動を展開し、豊かな心、確かな学力、健康や体力の育成に努めます。
- (2) 教育目標の具現化をめざし、全教職員が意欲と使命感を持って学校経営に参画し、生徒や保護者等の信頼や期待に応える学校づくりに努めます。

4 教育課程編成の方針

- (1) 自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を目指し、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成を重視した指導を徹底し、個性を生かす教育の充実を図るとともに、生涯教育の基盤を培うことをねらって教育課程を編成する。
- (2) あらゆる教育活動の中で、また、学校・家庭・地域社会が一体となり、「学びあい、喜びあい、励ましあう」活動内容及び場を設定し、生徒と教師、生徒同士及び地域の人々との交流を深めながら、お互いのよさを認め合い、信頼し合い、豊かな人間関係の構築を図り、特色ある学校づくりを目指した教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
 - ・豊かな心をもって、自律・実践する生徒の育成 — 希望・創造・感動の校風をめざして —
- (2) 学習指導
 - ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 —○発問・学習活動の工夫—
- (3) 児童生徒指導
 - ・心を育む教育活動の推進 —あいさつ・いじめ対策・生活のきまり—
- (4) 健康（体力・保健・食育・安全）
 - ・自分の健康や体力の向上・安全に高い関心を持つ生徒の育成 —教科体育・学校行事の充実と健康や安全意識の高揚—

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通、地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回 85%以上	①『宇都宮モデル』を踏まえて、どの授業でも、「課題提示」と「振り返り」を習慣化する。 ②生徒の追求意欲を高める教材・課題提示の工夫をし、協働的に課題解決に当たる活動時間の確保を行う。	B	【達成状況】教職員の肯定的回答は91.7%で目標を達成した。 【次年度の方針】今後も引き続き、授業に落ち着いて取り組める雰囲気作りを大切にす。また、 <u>小学校と連携して、毎回の授業における「課題提示」と「振り返り」の習慣化、1人1台端末の有効活用を図る。</u>
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 生徒は、思いやりの心を持っている。 【数値指標】 教職員の肯定的回 90%以上	①通常の学校生活や学校行事など様々な機会を捉えて、思いやりの心の大切さを指導する。善行に対しては、学校長賞や学年主任賞の表彰をしたり、学校だより等で広報したりしていく。 ②道徳の授業では、指導内容項目「B-(6)思いやり、感謝」の指導に重点を置いて、生徒の心に響く授業展開を工夫する。	B	【達成状況】教職員の肯定的回答は97.9%で目標を上回った。市中学校の平均を3.0ポイント上回った。 【次年度の方針】些細なことであっても「思いやりのある言動」を取った生徒を見逃さず情報収集し、個別に褒めたり、時には全校にその言動を紹介して称賛したりする。また、道徳の授業で指導内容項目「B-(6)思いやり、感謝」の指導に更に力を入れていく。
	A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	①道徳の授業では、指導内容項目「希望と勇気 克己と強い意志」の指導に力を入れるとともに、特活や総学等においても、様々な活動に粘り強く取り組めるよう、前向きな声掛けやほめて伸ばす指導を心掛ける。 ②「宮・未来キャリア・パスポート」の活用と小学校と連携した「キャリア教育における基礎的・汎用的能力」の実態把握アンケートの実施など、継続的なキャリア教育を行い、生徒が主体的に将来の目標に向かって諦めずに粘り強く学習や運動などに励み続けることの大切さを指導していく。	B	【達成状況】生徒の肯定的回答が85.6%で目標を上回った。 【次年度の方針】学校全体で「ほめて伸ばす」を合言葉に、協力して生徒指導にあたる。 今後も <u>小学校と連携した「キャリア教育における基礎的・汎用的能力」の実態把握アンケートを活用する。</u> また、中学3年生になってからの進路指導だけではなく、1、2年生のうちから職業人に学ぶ会や職場体験学習、立志式などを実施して、学校や家庭で職業や進路に対する話し合いの機会を増やせるような、計画的・体系的なキャリア教育を行っていく。
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	①生徒会保健体育委員会や生活安全委員会を中心に、健康体力の向上や感染症を含む病気やけがの予防、登下校時や校内での安全な生活について啓発していく。 ②保健体育科の授業や、養護教諭や生徒指導主事、交通安全係からの指導をとおして、安全に関する知識を深めさせる。	B	【達成状況】生徒の肯定的回答が92.2%で目標を上回った。 【次年度の方針】○健康や安全の大切さを学び合い、健康体力の向上や感染症を含む病気やけがの予防、危険を察知し、安心・安全な生活ができるような実践的知識・技能を育てていく機会をつくる。また、保健体育科の授業や交通安全教室等を活用し、命の大切さも指導していく。

<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①宮・未来キャリア・パスポートの活用や、年間3回行われる教育相談で、各生徒のよさや成長を生徒や保護者に伝え、さらに高い目標をもって生活できるよう促す。</p> <p>②「ほめて伸ばす」を教職員全体で実行し、自己肯定感をもって前向きに生活できるよう助言する。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答が92.2%で目標を上回った。市中学校の平均を3.6ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 特別活動など教育活動全般で、生徒が主体的に活動できる場を設定し、より多くの経験をとおり、自己有用感や自己肯定感が持てるよう指導を工夫する。</p> <p>HP や保護者会等で学校の取り組みを広く周知し、教職員と保護者、地域が協力して生徒の成長を支えられるよう努める。</p>
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①○小学校の「外国語活動」や「外国語」の指導内容の理解に努め、小中一貫教育・地域学校園の教科部会において9か年で育てたい力を明確にし、積極的にコミュニケーションがとれるように指導していく。</p> <p>②A L Tにはできるだけ生徒との交流を持ってもらい、授業中のみならず、休み時間等の雑談等でも英語でコミュニケーションをとるよう促していく。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答が72.0%で目標を下回った。市中学校の平均を1.5ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】<u>小学校の「外国語活動」を通じて培った音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度を、継続できるよう、積極的にA L Tを活用する。</u>英語科中心に、学習内容を総合的に活用できるコミュニケーション能力の育成を目指す。</p>
<p>2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A7 生徒は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①総合的な学習の時間の「宇都宮学」では3年間を通して「宇都宮の良さ」を主体的に学習し、郷土を愛し、知識や思いを積極的に発信できるよう指導する。</p> <p>②道徳の授業において、特に指導内容項目「C- (16)郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する心」の授業を充実させていく。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答が86.7%で目標を上回った。保護者の肯定的回答は昨年度より6.4ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 学習の様子を各種たよりや学校HPを通して保護者や地域に発信するとともに、家庭でも話題になるような提案をしていく。</p> <p>総合的な学習の時間に「宇都宮学」を年間指導計画に位置づけるだけでなく、社会科や道徳科で「宇都宮の良さ」に気付かせる主体的な学習を多く取り入れながら指導していく。</p>
<p>2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①各教室の大型テレビでデジタル教科書を使用したり、1人1台端末を活用したりするなど、デジタル機器を積極的に活用していく。</p> <p>②○小中一貫教育・地域学校園として小学校低学年のうちからICT教育に力を入れ、パソコン等のデジタル機器の活用に慣れ親しませていく。また、指導する教職員の研修はICT支援員を有効活用し計画的に行う。また、調べ学習以外の図書室の利用方法を周知し、積極的な活用を促す。</p>	<p>【達成状況】教職員の肯定的回答が75.3%で、目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】1人1台端末を、各教科・各領域だけでなくあらゆる学校活動において積極的に活用する。そのためには、指導する教職員の研修を充実させ、校務等にも積極的に活用していく。</p> <p>図書室は、教科の授業内容に合わせて、資料や辞書の利用が多い。調べ学習は、1人1台端末と図書室の利用や書籍資料活用が併用されているので、今後も積極的な活用を促していく。</p>

<p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①SDGs等について、社会科や理科、技術・家庭科、道徳科、総合的な学習の時間等を中心に、教科横断的な視点で関連を図り、問題解決的な学習を充実させる。 ② 生徒会執行部による「届けよう、服のチカラ」プロジェクトへの参加や、生徒会福祉委員会による「ペットボトルキャップの回収」や「ベルマーク」収集に力を入れ、活動の中で自然と「持続可能な社会」に対する関心が高まるように支援していく。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答が81.5%で、目標を上回った。 【次年度の方針】リユースやリサイクルなど家庭生活や学校生活に根付いているが、生徒主体の活動を通して、さらに自覚を持って取り組ませたい。社会科や理科、道徳科、総合的な学習の時間等を中心に多面的に指導する。 また、今後も生徒会活動において、子供服やペットボトルキャップの回収、ベルマークの収集等、具体的な活動を通して体験的に学ばせていく。</p>
<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの実践に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 週1回の教育相談部会を充実させ、特別な支援を必要とする生徒の実態を共通理解していくと共に、具体的な支援策を全職員で周知し、実践していく。SCやMS、サポートルームやかがやきルームを有効に活用する。 ②校内支援の推進と充実のために、市教育センターなどの専門機関による相談機関や医療機関等との積極的な連携を図り助言を得る。</p>	<p>【達成状況】教職員の肯定的回答は97.9%で目標を上回った。 【次年度の方針】毎週1回の教育相談部会を充実させ、特別な支援を必要とする生徒の実態把握を行うと共に、具体的な支援策を立て、全職員に周知し実践していく。 支援にあたっては、SCやMS、市教委や市教育センター、児童相談所等の関係機関、医療機関等からの助言、指導を十分に生かして実施していく。</p>
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①○全教職員が「いじめほどの生徒にも起こりうる」との認識のもと、生徒の授業中の様子や、休み時間・給食時等の様子をよく観察し、些細な変化や、周囲の好ましくない雰囲気等を敏感に察知するよう心掛ける。 ② いじめの未然防止に向けて、年に4回行う早期発見のためのアンケートや、生徒会生活安全委員会が行ういじめ根絶集会等の様子をHPや学校・学年だより等を通して保護者や地域に発信していく。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答が96.4%、教職員の肯定的回答は100%で、目標を上回った。 【次年度の方針】○全教職員がいじめに関する正しい認識を持ち、些細な変化や、周囲の好ましくない雰囲気等を敏感に察知するよう徹底する。気になる事象に対しては、学年主任、生徒指導主事等に迅速に報告・連絡・相談し、早期発見、早期対応、再発防止ができるようにする。 また、教育相談後の記録用紙の工夫や保護者への啓発活動、生徒から保護者からともに相談しやすい体制づくりに努める。</p>
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①全ての生徒にとって居がいのある温かい雰囲気の学級経営に努める。 ②○小中一貫教育・地域学校園として小学校低学年のうちから不登校の傾向の見られる児童に対する適切な支援を小中が連携して検討、実施していく。 ③不登校傾向の表れてきた生徒に対しては、家庭と密に連携を取りながら、教育相談部会で状況報告や支援策の検討を行い、全職員の共通理解の基で個に応じた支援を組織的に進めていく。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答が96.1%、教職員の肯定的回答は100%で目標値を上回った。 【次年度の方針】「<u>中一ギャップ</u>」による不登校に対応できるように、<u>小学校との連携を強化し、切れ目のない支援を行うことが大切である</u>。また、夏休みなどの長期休業の後も重点的に対応していく。教職員が家庭と連携し、些細な兆候も逃さずに互いに報告、相談を行うことで、未然防止に努めていく。更に毎週1回の教育相談部会を活用し、不登校傾向の見える生徒については早期に対応策を検討し、実施していく。</p>

3-(3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。	①学級での係活動、生徒会活動、部活動等で、生徒の自主的な活動意欲を高め、責任感や向上心を育てる。 ②校訓「自主創造」を学校行事や生徒会行事の企画運営に生かすために、	【達成状況】生徒の肯定的回答が95.1%で目標を上回った。 【次年度の方針】○生徒が自ら進んで「自主的、自発的に行う活動」となるよう、各行事や学級活動等を計画し、生徒の達成感、自己有用感を高めていく。活気があり笑顔あふれる授業や行事等になるよう実施方法や内容を検討していく。
3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	【数値指標】 生徒の肯定的回答90%以上	リーダー育成に力を入れ、生徒の自主的・主体的活動を積極的に取り入れながら、明るく活気のある教育環境の充実に努める。	B
4-(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答90%以上	①「主体的・対話的で深い学び」の実現と分かる授業の展開を目指す。のために要請訪問等の研究授業や授業研究会を通して授業力向上に努める。 ②少人数・習熟度別学習、T・Tによる授業の内容・方法等の研究、全校体制で取り組む特別支援教育の充実等を通して、個に応じた学習の推進を図る。 ③1人1台端末の活用や評価方法の研究に積極的に取り組む。	B 【達成状況】生徒の肯定的回答が93.7%、教職員の肯定的回答は100%で、目標を上回った。 【次年度の方針】○新学習指導要領に準拠した「主体的・対話的で深い学び」を重視し、授業を実践していく。 特に数学や英語については少人数・習熟度別学習やT・T授業等を行い、個に応じた学習指導の推進を図る。 また、取り扱う教材・教具（1人1台端末を含む）や評価方法の研究にも更に積極的に取り組む。
4-(2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答が85%以上	①学校長を中心に「チーム学校」の考え方の基で、教職員が保護者や地域の力を借りながら、生徒のために一致団結して教育活動を行っている。 ②週1回の校務運営委員会において、行事や校務の改善点について提案し予め具体策を検討しておくことで、効率的に職員の共通理解を図る。	B 【達成状況】教職員の肯定的回答が95.8%で、目標を上回った。前年度から11.0ポイント上昇した。 【次年度の方針】「チーム学校」の考え方のもと、教職員が保護者や地域の力を借りながら、生徒のために一つの方向に向かって一致団結して教育活動を行っていきける環境を整えていく。 また、だれもがやりがいをもち楽しく働けるような職員室づくりを全職員に呼び掛けていく。
4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答が80%以上	①全職員の出勤時刻の把握を管理職が徹底し、ICTの活用や削るべき仕事は思い切って削っていくなど、業務の効率化を図る具体策を講じていく。 ②ICT支援員など専門スタッフと連携し、教職員の負担軽減に取り組む。 ③個人的に時間外勤務が多い職員に対しては、個別に面談を行い、業務を効率化していくための指導・助言を行う。	A 【達成状況】教職員の肯定的回答が66.7%で目標を下回った。 【次年度の方針】出勤時間を管理し自覚をもって働き方改革に取り組んでいけるよう、意識改革の必要性、具体的な方法を学ぶ職員研修を行う。 業務の効率化を目指し、ICTの効果的な活用やペーパーレス化、地域人材の活用等に取り組んでいく。
5-(1) 全学的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答80%以上	①○地域学校園各小学校との情報交換や連携の推進に努める。合同のあいさつ運動や学習指導上の目標やきまりの共有を行う。 ②「小中一貫教育・地域学校園」の取組内容について理解してもらうため、学校HPなどに活動の様子を掲載し、広報と拡大に努める。	B 【達成状況】教職員の肯定的回答が72.9%で目標を大きく下回った。 【次年度の方針】○コロナ禍で行われなくなっていた、小中合同の活動も少しずつ再開されている。9年間で育てたい力を明確にし、学習や児童生徒指導に取り組んでいく。 学力向上担当による乗り入れ授業は継続し、活動内容について各種だよりやHP等で周知していく。

<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> <p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①宮の原中学校地域協議会の提言等を取り入れた教育活動の推進、地域の行事等への生徒の参加を通して、家庭や地域、企業等と連携を図った生徒の健全育成に努める。</p> <p>②諸活動や取組内容について、学校HPなどに活動の様子を掲載する。最新の情報に更新し、毎月各種たより等を発行することによって啓発を行い、さらなる協力を求めていく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】保護者の肯定的回答が87.9%地域住民100%で、目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】地域協議会の活動、地域の行事等への生徒のボランティア参加、地域の企業等と連携した社会体験や保育体験等の諸活動を学校HPや各種たよりに掲載したりすることにより、活動内容の周知や活動への理解と協力を得ることに努めていく。</p>
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答が90%以上</p>	<p>①避難所初期支援マニュアルにおいて、本校体育館と西校舎が災害時の避難所になるため、空調施設の設置状況等を考慮し、より使用しやすい改定を行う。</p> <p>②学校敷地内、周辺道路の見回りを徹底し、危険箇所の発見に努める。校庭やテニスコートの整備、体育館アリーナのネットや空調施設の無い場所への冷風機の設置などを計画的に行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】教職員の肯定的回答が95.8%で、目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】本校のテニスコートや校庭は凹凸が目立ち下地が露出した状況で、整備が必要である。また、樹木が多く、害虫や伸びすぎた状況で、それらの対策を市教育委員会や本校PTAや地域協議会と連携しながら改善に取り組む。また、日頃より、健康安全指導部を中心に校内環境を整えると共に、生徒への安全教育に更に力を入れていく。</p>
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答が85%以上</p>	<p>①デジタル機器に関する、教職員側の研修を充実させ、各教科・各領域だけでなくあらゆる学校活動において、さらに積極的に活用していく。</p> <p>②1人1台端末は各教室に教員用の予備機や予備充電器を準備し忘れた生徒に対応できるようにする。放送室からの映像の配信方法を変更し、デジタル放送のみのテレビに対応する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】教職員の肯定的回答が95.8%で、目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】Wi-Fiの整備など周辺環境が整い、教員も生徒も使用に慣れてきたので、ICTの活用についてさらに研修し、有効活用を進めていく。</p> <p>休みがちな生徒への支援として、授業内容や次時の準備をclassroomで共有することは継続して取り組んでいく。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>①〇日常の教育活動全般を通して、相互の人格を尊重し合う態度を育てるとともに、あいさつの大切さと意義を指導する。授業の始めと終わりのあいさつは、全体でやり方を統一し、丁寧に取り組む。</p> <p>②定期的実施している生徒会によるあいさつ運動や、教職員からの積極的な声掛け等により実践力をつける。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】教職員の肯定的回答は100%で目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】〇日常の教育活動全般を通してお互いの人格を尊重し合う態度、そのためのあいさつの重要性をしっかりと指導していく。そして、実践としては生徒会の定期的なあいさつ運動や、教職員や地域協議会による登下校指導の際のあいさつ励行等に継続して取り組んでいく。</p>

<p>B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①〇同一步調で組織的に生徒指導を進める。生徒の規範意識を高めるとともに、リーダーを育成し、自立的な生活態度を育てる。</p> <p>② 計画的な巡回指導、生徒一人一人に目を向けた細やかな指導を通して、問題の早期発見・早期解決・再発防止に努めるとともに、家庭と連携しながら長期的な視野で生徒の変容を支援する指導体制作りを進める。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答は97.0%で目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】〇生徒が安全に楽しく学校生活を送ることができるよう、教職員が日頃より、問題行動の予防・早期発見・早期解決・再発防止に向け、組織的に対応していく。また、学校行事や生徒会活動、部活動などを通して、リーダーの育成に力を入れ、自治的・自立的な集団となるよう支援していく。</p>
<p>B3 生徒は、学級での活動、生徒会活動、学校行事で、自己肯定感・自己有用感を育てている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①学級の係や委員会活動、給食や清掃等の当番活動を、責任をもって行えるよう、学級組織の作り方や指導を工夫する。</p> <p>②自ら進んで協力して活動することの大切さを繰り返し指導し、良い活動状況に対してはほめてさらに伸ばす指導を実践する。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答が88.4%で、目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】〇学校行事や生徒会活動が、おおそ計画通りに実施できるようになり、生徒が活躍できる機会が増えた。教職員の支援のもとで生徒が自主的、自発的に活動できるように計画し、実践していく。</p>
<p>B4 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心、年少者に対するやさしさの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 道徳の授業における指導内容項目「B-(6)思いやり、感謝」、「C-(14)家族愛、家庭生活の充実」の指導を充実させていく。</p> <p>② 高齢者に対する感謝やいたわりの心や年少者への優しさが現れた行為があった場合は紹介し、自分にできることから実践していくよう指導する。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答が96.6%で目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】道徳の授業における指導内容項目「B-(6)思いやり、感謝」、「B-(14)家族愛、家庭生活の充実」の指導を充実させていく。地域の活動に積極的に参加することを促し、日頃より高齢者や年少者と接する場をつくり、実践的に学ぶ機会を大切にする。</p>
<p>B5 教職員は道徳教育の推進を通して、温かい人間関係、心豊かな生徒の育成に努めている。</p> <p>【数値指標】 教職員と生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学年体制で取り組む道徳研究授業と校内研修（特に評価の方法）、全時間分の資料と展開例の整備と活用等を通して、教職員一人一人の指導力向上に努める。</p> <p>② 道徳の授業と日常の教育活動の関連を図った指導を通して、生徒の道徳性を育むとともに、学校生活の向上や生き方の探求に努めようとする態度を育てる。</p> <p>③ 保護者に本校での取組を知ってもらうために、学校HPを利用した情報発信をするとともに、授業参観や学校公開で道徳の授業を参観できる機会を検討する。</p>	<p>【達成状況】教職員の肯定割合は100%で目標を上回った。生徒の肯定割合も97.2%で目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】今後も道徳教育に力を入れ、変わらず取り組んでいく。年間指導計画（自校化）や、授業の展開、評価法等を継続して研究していく他、外部や校内での研修を充実させ、教職員の授業力を高めていく。また、学校公開時に全クラスで授業公開し、保護者や地域からのアンケート結果をその後の指導に生かしていく。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○生徒の学習に関わる項目 A1. A3 や B3 を見ると、いずれの質問に対しても教職員、保護者、生徒の肯定割合が高く、学校生活全般、学習や生徒会活動、行事に前向きに取り組む生徒の姿が見える。

他に良い点は、A2. B1. B2 の結果に表れている、あいさつやマナーの良さ、他の人に対する思いやりがある点で、教職員、保護者、地域住民、生徒のどの評価者からも肯定割合が高い。具体的には、A11～A13. B5 の項目に表れた指導内容や指導体制の整備、家庭や学校での継続的な指導が良い結果を生んでいると考えられる。

○コロナ禍を経て、小中一貫・地域学校園の取り組みが積極的に行われている実感が薄いですが、実践している取り組みを HP 等で紹介し、周知していく。

教職員の肯定割合が特に低かった A9 の働き方改革に関しては、学校行事を特定の時期に集中しないように計画し実施方法の工夫をしたり、研修を行い今ある仕事をいかに効率的に進めるのかそれぞれが検討改善したりして、今後も重点的に取り組んでいく。

7 学校関係者評価

特に肯定的回答が多いのは、A2. A4. A19. B1. B2. B3. B4. B5 の質問項目で、保護者・地域住民ともに 90%を超える結果となった。そこから、生徒が明るく前向きに、優しく思いやりの心をもって秩序ある学校生活送っていると感じ取られていることがわかる。A8 の保護者評価は前年度から大きく伸びて、肯定割合は 79.4%となった。一人一台端末や図書の利用状況についてさらにわかりやすく周知したり、より良い家庭での活用方法を示したりして、有効活用への取り組みを継続していく。

保護者評価で肯定割合が低い項目としては質問項目 A7 の 72.2%であるが、昨年度からは 6.4 ポイント上昇している。令和 3 年度から総合的な学習で始まった「宇都宮学」について、学年通信や HP で周知していく。

地域住民の方からの評価は、おおむね高評価であるので、地域協議会や地域未来会議等で積極的に学校の取組みについて発信し、さらに理解と協力を得られるよう努めていく。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・本校の教育活動や学校運営については、全体的に肯定的に評価されている。特に A11.A12.A14.A18 の 4 項目は、生徒、教職員、保護者ともに肯定割合が向上しており、わかる授業を行いいじめや不登校の無い、落ち着いて秩序のある教育を目指す学校の姿が見えてくる。これらの項目の指導は、中学校からではなく、小学校低学年のうちからの指導の蓄積が大切であるため、今後も学校園における小中一貫教育に力を入れ、小学校との連携に努めていく。

○A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」については、教職員や生徒の評価は高いが、保護者の評価は 80.1%で決して高いとは言えない。保護者にとって、「いじめ」については大きな関心事であり、心配事である。本校は、年 4 回の「明るい生活アンケート」を実施し、「いじめ」に関して早期発見、早期対応、再発防止に努めている。いじめの発生率は低く、発生した場合の解消率も高いが、今後もいじめの無い学校を目指し、小さなトラブルにも丁寧に対応し、生徒に粘り強く指導をしていくことに加え、保護者と連絡を取り合い、協力を仰いでいきたい。また、保護者に対して、保護者会や家庭訪問、三者懇談等を利用するなど、安心して本校に通わせることができるよう説明し協力を仰ぐ機会を作っていく。

・A7「生徒は、宇都宮の良さを知っている」、A8「生徒は、ICT 機器や図書等を学習に活用している」、A9「生徒は『持続可能な社会』について関心を持っている」の質問項目は、現代社会の課題の解決に向けて欠かせない質問項目で、徐々に数値が上昇してきた。本校においては更に校内研修の充実を図るなどの具体的な方策を継続して取り組んでいく。

○A17 小中一貫教育においては、R5 年度から小学校への乗り入れ授業を再開した。小学校と連携し 9 年間を通して育てたい力を明確にして取り組んでいくことが重要である。

・A16「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」については、肯定的回答が依然として低い。特に中学校においては部活動改革が、時間外勤務削減の大きな鍵であり、早急の課題である。加えて、学校における働き方改革に関する緊急対策として平成 29 年 12 月の示された業務の役割分担・適正化を進めるための取り組みを着実に進められるよう、多方面に協力を要請するとともに、研修を行い教職員の意識改革にも取り組んでいく。